

ハングル表記漢字熟語の認知

李 光五 先生

(韓国嶺南大学校文科大学心理学科教授)

司会：浮田 潤 (関西学院大学文学部総合心理科学科教授)

日時：2007年3月24日 (土) 10:30~12:00

会場：関西学院大学上ヶ原キャンパス図書館ホール

講演概要：韓国語の語彙の約70%は漢字熟語であり、そのテキスト中での出現率は50%を超える。但し、漢字熟語の表記はほとんどハングルで行われる。このような状況は日本や中国と面白い対比を生じさせる。

日本と中国では、表記に漢字を用いるので、漢字熟語の形態素は視覚的に同定されやすいが、その音韻的コードの生成は容易ではない。一方、韓国においては、ハングルが表記に用いられるので、漢字熟語の形態素は視覚的に曖昧になる（同じハングル音節が多数の漢字に対応しているため）が、その音韻的コードの生成は容易になる。プライミング法を用いた実験研究によると、韓国語では形態素の反復による促進効果は現れない。

例えば、プライムの「山村」はターゲットの「山陰」の処理に影響を及ぼさない。これは、日本語や中国語さらには英語で得られた結果と異なる。本講演では、韓国語の漢字熟語処理に関する様々な研究を概観し、諸言語との比較を試みる。その上で、形態素処理の普遍性と言語依存性に関して考察を行う。

李光五先生は1979年にソウル大学をご卒業後、ソウル大学大学院を経て、1993年に北海道大学で博士（行動学）の学位を取得されました。言語、記憶、認知に関する実験心理学がご専門です。講演は日本語で行われます。

※参加費無料、事前申込み不要です

<問合せ先> 関西学院大学心理学研究室

〒662-8501西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL:0798-54-6209

URL:<http://www.kwansei.ac.jp/human/psy/>

会場への交通手段：① 阪急今津線「甲東園駅」下車 徒歩約15分 または、

② 甲東園駅前より阪急バスで約5分「関西学院前」下車

関西学院大学、会場へのアクセスについては、関西学院大学のホームページ内のリンクをご参照下さい (URL:<http://www.kwansei.ac.jp/>)